

なっ

7月号
vol. 161

特集

すたすた

⑪ 住まいとくらし緊急サポートプロジェクト
OSAKA

「新しい日常in西成」
潮路1丁目付近にて撮影

2018年1月からゆ〜とあいは居住支援法人のなかま入り。まちの人の相談の中で「このまちの公営住宅や古い木造住宅をもっと活かさなきゃ。」そんな気持ちがふつつあふれてくる。ヒントを探しにいろんなとこへ、いろんなひとに。

ゆ〜とあ

① 住まいとくらし緊急サポートプロジェクト OSAKA

二度とコメン

4月23日にクラウドファンディング（以下「クラファン」）活用型プロジェクトとしてスタートした「新型コロナウイルス・住まいとくらし緊急サポートプロジェクト OSAKA」。わずか1カ月の間に522名の方から715万円を超える寄付を集めることができた。

2008年9月に起きたリーマンショックをきっかけに、東京では年越し派遣村、大阪では大阪希望館が立ち上がった。そしてこのたびの新型コロナウイルスの影響で、仕事や住居を失い、多くの人が路上生活を余儀なくされるような事態は「二度とコメン」と立ち上がったのが、NPO法人金ヶ崎支援機構の小林大悟さん。ペテランの支援者・活動家が多い金ヶ崎ではまだまだ若手の34歳。WEBの活用を得意とする認定NPO法人ビッグイシュー基金や認定NPO法人Homedoorなどの連携を築いた。



クラウドファンディングを活用して寄付を募る

強い気持ちだけで動いていた

西田 今回のプロジェクトは周到に準備する時間はなかったのでは？

小林 クラファンで期待以上の活動費が集まったので、よくその質問を受けます。噂によると、クラファンの達人の成功には影のスポンサーの存在があるそうですが、そんな準備をする時間は全くなかった。西成で生まれ育ち、バブル崩壊やリーマンショックの時に、野宿する人がどんどん増えていく光景をみてきた。それをコロナで繰り返したらあかん。何かしないかという気持ちで始めました。

川上 4月の中旬に声をかけてもらって参加していますが、当初はまだ現場でもコロナの影響を大きく実感することとはなく、ビッグイシュー基金の大阪事務所に来る新規の相談者数も大きくは増えてなかった。ただこれから大変になるなという予感がありました。
西田 実際に相談会をやってみた感想をきかせてください。



小林 合計4日間の相談会とWEB相談フォームで100人以上から相談を受け、40人近くの人に住まいを提供したけど、殺到したというほどではなく、影響が出るのはもう少し先だと思えます。長期戦を覚悟しています。

川上 リーマンショックは、主に20、30歳の非正規や派遣社員が抱える不安定さを世に突き付けた。それを受けビッグイシュー基金では、『若者ホームレス白書』や『若者の住宅問題』など



今ならでは取材光景。今後もこんなふうに？

様々な角度から政策提言に取り組み、抜け落ちていた「住まい」と、若者への支援を作ろうとしてきました。でもコロナに世代は関係ない。もっと幅広い全世代の方々が相談に来ている。外国籍の人や日雇いやパートで何とか生活していた高齢者の相談もありました。ギリギリのところで踏ん張っていた人達の生活実態が一気に露呈したのがコロナ禍のような気がします。

住まいとくらしのシームレスな支援を

西田 長期戦というのは同感です。一方で、相談に殺到しないのは、リーマン後に整った制度が機能しているとは考えられないですか？

川上 住居確保給付金は在職中の収入減にも対応できるようになって、最長9カ月利用できるのですが、相談会に人が殺到しなかった1つの要因かもしれない。ただ、依然として支給額に上限があり、困窮している人にとっては申請が煩雑であるという課題もあって、新

ていますが、アフターフォローが大切。WEBの相談件数など数ばかりを追いかける気はないです。いま、『どん！と西成』という西成版サービスマップ構築・運営事業にも取り組んでいるので、地域資源をつなげてみんなのやりたい気持ちを支援していきます。

川上 ビッグイシュー基金の母体である有限会社ビッグイシュー日本もコロナの影響で雑誌の売上が減少していて、少しでもホームレス状態である販売者の生活を底支えしようと、期間限定の通信販売をやって、売り上げを分配しています。販売自体に積極的でない場合でも、相談にはぜひ来てほしいです



シームレスなネットワークを

型コロナが拡大する前から幅広い人に柔軟に対応できる制度であってほしかったです。また、無料低額宿泊所などの施設については感染予防には個室が望ましいのに、東京などの大都市では相部屋も多く、長期的には住宅の質が問題になってくると思います。

小林 リーマンの時と比べるととにかく生活保護につなぐのではなく、使える制度が増えた。理由はわからないけど、生活保護を受けるスティグマ感が薄れてきている気がします。とはいえ、やはり相談者には生活保護を必要とする人が多い。信頼できる不動産屋を通じて、スムーズに居宅への移行をサポートできたことが、感染を予防する上でも大きかったです。居宅の多くはゼロ物件（敷金・礼金なしの物件）で、生活保護の申請から決定までの約2週間はクラファンで募った資金からの支出で食料・日用品を現物提供します。現物提供はフードバンクや寄付などに頼っている現状ですが、もう少し制度的なバックアップが欲しいところです。

ね。ビッグイシュー基金では、何らかの事情で販売ができない方でも交流できる場を用意し、自立のサポートもしています。



今回のコロナ危機は、これまでの私たちの暮らしを一変させることになった。と同時に、潜在化していた「ギリギリの暮らし」が浮かび上がってきた。生活困窮者支援事業等の既存の制度はたしかにコロナ対策でも一定の役割を果たしたが、制度の「はさま」に置かれる人は必ず存在する。お二人の言葉にもあったように、次なる危機はもう少し後にやってくる。私たちもこの間、各種相談・支援に取り組んでいるが、長期戦を覚悟している。シームレスなネットワークの一員として、(株)ナイスやゆくとあいの資源も活かしていきたい。4月にオープンさせた「若者向け支援付きシェアハウスステップ」からはじめよう。

文責：西田吉志・田岡秀朋





1970年代という時間は、私にとって記号的、暗示的意味のある特別な歴史だったと記憶する。みずからの無知を知らされ、社会への関心を強いられ、なによりもみずからに微塵の力もないことを知らされた“時たち”の連続であったからだ。70年代という時が変幻し、遥かな遠い現在のこの地に漂着してしまった今、ごく私的なその記憶の断片をかき集め、私がいた70年代を確認してみたいと考えた。

くらし応援室／楽塾：佐々木敏明

1970年 三島事件 2

タマネギの秘密

三島の作品には露悪、あるいは自虐表現が目立ち、何よりもその底意に強いエロスと劣等感および死が介在する。三島の死はよく論議され、著名文学者の衝撃的な死は世間の耳目を集めた。70年代の幕開けは、三島を華々しいスクヤンダルで鎮魂し、近寄る者に火傷を負わせた。三島の死を知らせたわが愛用のトランジスタラジオ『なび』5月号参照も、その数日後に壊れ聴取が不可能になった。

死の直前だったか、某誌が三島の特集記事を読む。冒頭のページにタマネギが大写真され「むいてもむいても同じ私」というタイトルが表示されていたと記憶する。三島が去った後、傑作とされる『仮面の告白』(49年)を読み、ヘタマネギの意味を考えた。自らの日常、劣等感や自虐な性癖をさらし、複雑な因子を反逆武器としながら、典雅な文体を駆使し、何も変わら

ない世俗、国体への怒りに、実はタマネギの皮をむいても、変化のない正体が三島のタマネギ論なのだった。三島は自身も世間も何も変わらない焦燥を、文学や演劇、ボディビルなど“一人芝居”を通して、多面な仮面を被りながら演技し、何かに反逆しようとしていたかに見える。

反安保闘争が燃え盛る70年6月、日米安全保障条約が自動延長された。三島と「楯の会」が市谷の自衛隊駐屯地に乱入したのは、その後11月25日であった。「日本国は憲法を改正し、自衛隊は決起せよ」となどと脳天気ともいえる檄で自衛隊員らを挑発し、その後長官室で割腹した。愚劣、ナンセンスのそしりもののかは、大いなる三島の仮面舞踏会の終わり、此岸への見切り、あるいはあきらめであった。ただ見過ごせないエピソードもある。

三島が息せき切り、自らの大芝居をなす動機と考えられる事件が頻繁に続いていた。1960年代

終末から続く全共闘や反日共系による学園闘争や反安保闘争、そして三島自死に先立つ3月31日に勃発した赤軍派による「よど号ハイジャック事件」がそれで、左翼運動は三島の競合者であり、自らを脅かすハブリングスであって、市谷出勤への花道を急がせた要因ではなかったか。三島は大同こうをうならせる演技を見せたのだ。

三島の初期作品である『仮面の告白』及び『金閣寺』を読み返し、作品の通底音ともいべき三島の視座や言語から70年を閉じようとした作家を思い出したい。

『仮面の告白』

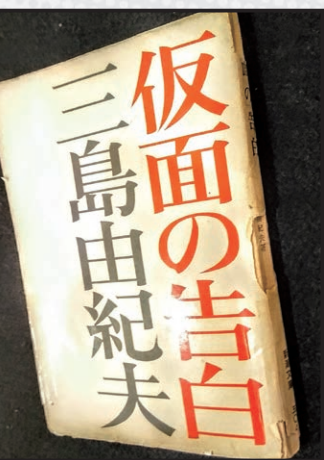
『仮面の告白』は、全四章で構成される三島の自己回想譚とも虚妄録とも思える小説だ。第一章は幼年時代。世間から排除される「悲劇的生者」(いわゆるマイノリティー)の存在と、男性像への憧憬を語る。煌びやかさ、人工美、扮装欲に興奮する少年、戦争ごっこで自分が死

にゆく状態に快感を感じる少年の過程が描かれる。

第二章では古代イタリア兵士の殉教図の逞しい体躯と、死に至る殉教者に倒錯する。殉教者は殺害され埋葬され、再び蘇生するが、主人公はこの殉教兵士の魅りにあこがれる。それはのちの長編『春の雪』なる輪廻転生の走りか。また男子中学での禁制の反逆者として現れる友人近江への恋は、『金閣寺』に登場する悲劇的生者なる柏木の存在と重なる。主人公は「理智によって些かも蝕まれない(中略)野蠻な憂いを、愛しはじめた」と近江の存在を告げ、また「理智に犯されぬ肉の所有者、つまり与太者・水夫・兵士・漁夫など」を「熱烈な冷淡さで、(中略)しげしげと見ている他はなかった」と倒錯の恋を告白する。

破壊と創造

第三章。少年となった主人公は、「人



生は舞台だという意識にとりつかれ「演技をやり了れば幕が閉まると信じていたと告白する。人は仮面をかぶると自己欺瞞でいることにも気づかない。偽りの機械の部屋の中に閉じ込められると、素顔の自分と、欺瞞の仮面をかぶった自分とはどちらが真の自分なのかという命題である。また異性に無関心な少年が語られ、戦死への待望感と恐怖を語る。そのいずれが本当の自分かという主人公の自問。演技が自分の組織の一部と化するのだ。「演技を忘れたのであろうか」という、仮面とそれをかぶらない自分との相克が語られ、それは同性でなく異性愛としての園子という女を愛し始めた矛盾だ。そこに禁欲という情愛の正当性を感じ主人公の心の

軌跡を見るのだが、周囲の祝福を拒否するように、その愛を否定していく。そこに敗戦の報、主人公の言う戦争による国家の死が伝えられ、つまらぬ「日常生活」の到来という悲劇を迎えてしまう。『金閣寺』の主人公のように。

第四章は、戦後、結婚した園子と

逢い始める。「私の本質、私の第一義が不徳である結果、道德的な行い、やましからぬ男女の交際、その公明正大な手続き、得操高い人間と見做されること、却ってこれらのことが背徳の秘められた味わい、まことの悪魔的な味わいで私に媚びるのである。」というレトリックで読者を攪乱する。終章に「悲劇的生者」である野卑な青年が現れ、主人公の目線が彼に向けられ幕を閉じる。三島は破壊と、生命創造への欲求を目指したのだ。(この項、9月号に続く)

見開きデザイン構成

「三島と仮面」/ Ichinomiya

*各表示の仮面は楽塾熟生たちの作品



〔田岡秀朋〕
熱狂はなさそうな夏。
季節はずれな7月24日の体育の日だけが残った。
来夏はアスリートの躍動に期待しよう。



〔佐々木敏明〕
次を待て一休論す仏生会
俗はしゃぎ天たしなめて山笑う
表情を隠しまなこが言うマスク



〔沖田一志〕ZoomやYoutubeライブを試す機会があった。一昔前はストリーミング配信には専用機材が必要でかなり大掛かりだった。今はPCやスマホがあれば簡単にできてしまう。便利な時代だ。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。
いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成に
たどり着いていた、或るオタクのばっくん系コラム。

『根源的な悪を救う物語』

映画やドラマ、漫画などの物語に登場する悪は、近年、悪としての純粹さを失っていると思う。理不尽で不条理で、対話の余地のない一方的な悪を見かけることが減ったように感じるのだ。そして代わりに現れたのは、悪の理由「背景」である。悪にも人生があり、事情があり、そこに同情の余地や共感できる要素がある。社会構造や家庭環境など、本人以外の要因を語る場合も多いだろう。

確かにおおよその悪とは、悪自身以外にも理由を見出すことができるものだ。しかし、ひたすら純粹に、生まれ持つて悪であるという人物が存在しないと言えるだろうか？ 私はそうした「根源的な悪」の救われ方を探している。それは本質的な異質を、人が乗り越えるヒントになるのではないかと思うのだ。

.....

昨年のヒット映画『ジョーカー』では、バットマンに登場する悪役ジョーカーが、いかにして悪となったのかを描いた。その背景にあるのは貧困、孤独、社会的弱者への差別や無理解だ。あるいは現在破竹の勢いで売れている漫画『鬼滅の刃』でも、敵である鬼たちの死に際に彼らの人生を走馬灯のように描写し、カタルシスを誘う。

こうした悪の背景を語る物語は、複雑に絡み合った現代社会の課題に言及し、多面的な視点を持つことの大切さを語る。他者への想像力は、人が互いを尊重し、許容し、共生していくために無くてはならないものだ。このような物語はこれからも増えていくだろうし、増えていつてほしいと思う。ただ、気にかかるのは、その流れの中で取り残される存在、「根源的な悪」である。

悪に背景があれば、人はそこに自分との連なりを見る。「そういうこともあるかもしれない」「仕方なかったんだな」。そう感じた時、その悪は異質な存在ではなくなる。「背景のある悪」は「理解しうる隣人」なのだ。それに対し「根源的な悪」は「圧倒的な他者」と言えるだろう。「根源的な悪」は、全く共感できない理由で、あるいはそもそも理由などなく、悪事を働く。彼らはただただ、純粹に悪であるのだ。それは多くのの人にとって理解不能で異質な存在だ。だから恐れる。わからないことは、違うということ、通じ合えないことは、怖いのだ。

しかし、よくよく考えてみると、本質的には善も悪もない。悪とは、特定の視点からの利害関係や、特定の時空間においての価値基準の上にしかない

たまたま相対的なものだ。便宜上「根源的な悪」という言葉を使っているが、本当の意味では、そんなものはないのである。それなのに「根源的な悪」は、生まれた社会の中で悪とされる性質をたまたま持つていたがゆえに、排除される。もちろん悪は悪事を働くので放っておくことはできないが、「背景のある悪」が救われたり改心したり、共感によって情状酌量されるのに対し、「根源的な悪」は倒されるのみだ。

では、彼らは生まれもって切り捨てられる存在なのだろうか？ 救われることを許されない存在なのだろうか？

.....

私はこの問いに対する答えを出せずにいる。だからこそ、「根源的な悪」が救われる物語を読みたい。「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」とはSFの父と呼ばれるフランス人作家ジュール・ヴェルヌの言葉だが、私はSFや技術開発の面だけではなく、人の心についてもそう言えるのではないかと思う。物語は可能性に溢れているのだ。

.....

最後にひとこと。根本的な話として、犯罪は「ダメ。ゼッタイ。」である。

ハンブレイ・T



いよいよ夏本番！子ども達は暑くても外あそびが大好きです♡
特に「よーいドン!!」、色水あそび、どろんこあそびが大人気☆暑い時の水遊びが気持ちいいのは子どもも先生も一緒ですね♪



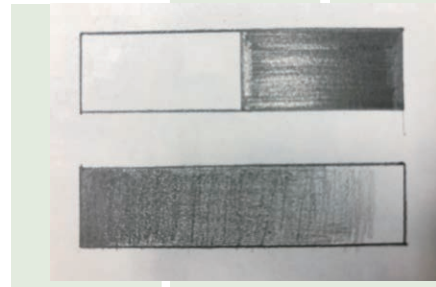
空間デザインツールの、まずは「わける」を考える。

僕たちが何気なく使っている「コトバ」は、まさに物事を「それ」と「あれ」にわけける行為に他ならない。その「チガイ」が意味となる。その中で「甘い」「楽しい」「美しい」などは、人によって感じ方が違い、きわめて相対的。一方、名前は「これがそうなのだ」というまさに絶対的な言葉で、たとえば和室・洋室・居間・台所・風呂のように行為・設えによって明確に部屋を分ける。とすると、名前とは、食糧分離の考え方や水回りの衛生面への配慮で取り付けられた壁や扉のようである。

しかし最近の都市住宅では、リビングダイニングやアイランドキッチン、吹き抜けのようにならざるに境界を曖昧にし、あるいは可動間仕切りやカーテン、扉への小窓の設置で曖昧な連続性・柔軟性を残して、家族の「ゆるやかなつながり」を促すことが増えてきた。

今回は、一つの空間をいかにしつらえ、有効に「分かち合える」のかを考える。

(安田拓也)



わける

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。



【安田拓也】自炊して分かったこと (3) 料理って意外とスツとできる。少し面倒に感じるが、作り始めると楽しく達成感もある。それを求めてまた作りたくなる。山登りや自転車に似ている。



【西田吉志】今年の4月に「若者向け支援付きシェアハウス「ステップ」」を出城3丁目にオープンしました。一人暮らしなど社会に不安を感じる若者のステップアップにつながればいいなあ。



【寺島史視】感染対策のため人数や時間の制限はあるが、先月からようやく子ども事業を再開することができた。みんなの元気な姿をみてホッとしている。7月も元気で楽しい活動をしていきたい。



【谷口ユキ】ネットで可愛いワンピースを見つけて値段を見たら8万7千円。お高いなあと思って再度よく見たら87万でした。いくらなんでもお高過ぎないでしょうか。

葉っぱの吐き

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「あじさいの葉っぱ」の巻

暑い日。
友だちのカタツムリが、わたしの上で
「あなたのお肌、カサカサだよ。」と言った。
私は落ち込んだ。
そんなある雨の日。
わたしの肌にポツリポツリと雨があたると。
わたしの肌が少しなめらかになってきた。
またまた雨。
「梅雨入りしたよー!」
葉っぱのわたしの上的カタツムリが教えてくれた。
わたしの肌がちょっとツルツルしてきた。
今日も雨。
葉っぱがツルツルンのわたしと、
わたしにしがみつくカタツムリと目があって
二人はにっこり笑いあった。

赤井まゆみ

あじさいのこと

ユキノシタ科。別名アズサイ。葉と根には、めまい・嘔吐など引起す毒がある。花言葉は全般には「移り気」だけど、花の色で変わる。

い湯かげん

静かな世論が格差に立ち向かった

コロナ補償を柱とした第二次補正予算案が可決されて国会は閉幕した。雇用政策及び中小企業支援に限定してみると、この短期間にいろいろ変動したが、厚労省も現場の要望に耳を傾けてくれ、野党も雇用新法を共同提案するなどして、現時点ではある程度満足できる制度設計になったのではないだろうか。

雇用政策の柱である雇用調整助成金では金額と対象者が問題になった。当初は日額上限を8330円としたが、橋下徹さんなどが大ブーイングし、15000円にまで引き上げられた。また、対象者が雇用保険加入者に限定されることが懸念され、随分世論が沸いた。結果、パートや学生アルバイトなどすべての企業内

非正規労働者も支給対象となり、財源は雇用保険外で国庫から支出されることになった。さらに、申請や支払いが企業を通じて行うとされたので、申請を渋る企業が出るのでは、と懸念された。いわば日本の雇用政策の長年の課題だったが、政府はハローワークを通じて労働者が直接受給できるようにしてくれた。これは青天の霹靂だった。

中小企業支援については、製造業よりサービス業に話題が集中したのは時代を映していたが、休業を求めておいて補償がないなんて言語道断との世論が沸いた。橋下さんなどは、永田町という一等地の議員事務所費を税金で賄っている国会議員には、休業のうえに高い家賃地代がの

しかかる民間の苦しみがわからないのだと舌鋒を極めた。結果、休業補償上限200万円給付を自治体が各々決断し、国も地方交付金で財源を担保した。家賃助成も詳細は未定だが上限600万円の補償が決まった。さらに、無利子無担保で上限600万円の緊急融資が決まったのも晴天の霹靂で、これは活用できると思った。

ボクは、ダイヤモンドプリンセス号の失敗やマスクの不人気、臨時給付金のゴタゴタなど、安倍首相が勢いをなくした結果、案外と現実的な政策に落ち着いたと思った。さらに、野党が雇用新法の共同提案など頑張ってくれた。提案者の一人に大阪選出の尾辻かな子さんもおられて良かったと思った。

雇用保険未加入者にも休業補償するという今回の決定を、新聞などでは「みなし失業」と呼称したが、厳密には「みなし失業」だ。雇用保険法に基づく失業給付は、金額も対象も今回の休業補償には劣るので、まさに「みなし失業」給付への改善措置が求められる。野党共同の雇用新法案で

6月1日から「ゆ〜とあい」の事業のうち卓球、麻雀、元気体操、貸室を再開した。これらは利用者と協議し、3密を避ける運営を実施するところまで進められた。しかしカラオケだけはまだどうしたら再開できるのか思案中である。新型コロナで生活のスタイルが変わる。マスク、消毒、人と人の間隔をとるなど、「うつらない／うつさない」に配慮してどんな生活をすべきか考えよう。

また、これまでのコロナ関連補助金等の相談で気づいたことがある。国の「持続化給付金」などはネットでしか申請できないが、地域の個人事業主すべてがネット環境を整えているわけではない、ということだ。だから、メールアドレスを取得するところから申請手続きを始める例も少なくなかった。制度設計の段階で、申請できない人が出ないようにしっかりと考えてほしかった。

今こそ、社会のこれまでを見直し、人権を軸にした政策が求められているように思う。変化のチャンスである。
(寺本良弘)

皮算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



【山村裕太】
久しぶりに『スラムダンク』を読み返しました。何回読んでも山王高校との最終戦は鳥肌が立ちます。あと、三井寿がカッコ良すぎ。



【若松司】
コロナ禍のなかSNSやWeb配信動画で世論がけっこう盛り上がっていた。リモートでの討論になると司会の力量が如実に現れる。出演者には順番を待つお行儀の良さが求められる。

響を及ぼすのは、目に見えるものだけではありません。十八世紀、経済学者のアダム・スミスは『国富論』で市場の「見えざる手」を論じ、学問の発展に貢献しました。またサン・テグジュペリの『星の王子さま』にある「心で見なくちゃ。ものごとは良く見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」というセンテンスは、いつの時代も真実の言葉です。仏様も目には見えませんが、心で見つめると発見できます。

先日、ご遺族に「With 悲しみ」を提案しました。「がんばって悲しみを打ち消そうと苦しまないでください。まずは自然に悲しみと共に生きて行く中で、必ずそこから大切なことに気づく世界が開けてきます」と。

松向寺 通法

地域の縁を心でつなぐ 松崎こい 心の時間

コロナと共に生きて行くという意味の「With コロナ」という言葉をよく耳にします。コロナウイルスは肉眼では見えませんが、その存在を疑う人はいません。しかしウイルスの「発見」は今から約一二〇年前と意外に歴史は浅く、それまでは存在するだろうと推定されていたにすぎません。

そもそもこの世に大きな影

ココドコ

ココはドコ？
わたしはぐへレ？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

青い空に白い煙を吐き出す大きな煙突。後ろにチラリと見えているものが大きなヒントになるかも？ココがドコかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は7月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 長橋小学校の目の前にある、長橋公園でした！大きなお皿みたいな遊具は遊びがいがありそうです。



ゆ〜とあい にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび7月号(vol.161)
発行日:2020年7月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、
寺島史規、西田吉志、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

